



明日の
夢づくり
沖縄の未来を担う
人づくり・モノづくりを紹介します。



写真右: オーボエに次いで今後、力を注いでいきたいというクラリネット。
写真上: 見た目の美しさも評判が高いヨーゼフの楽器 (奥からクラリネット×2・オーボエ×2・ピッコロ×2)。写真下: 1000個のパーツがあるというオーボエ。細かなパーツ一つひとつが独自設計です。



新たな発想によるオンリーワンのモノづくりで 沖縄から世界への扉をひらく

[株式会社 美ら音工房ヨーゼフ]

演奏者の視点を活かした設計で
伝統ある木管楽器を進化させる

南城市志堅原の海を見下ろすのどかな場所に建つ「株式会社 ヨーゼフ 美ら音工房」は木管楽器を製造し、国内外で販売している楽器メーカー。創業者であり、自ら楽器の設計をしている取締役社長の仲村幸夫さんはプロの演奏家から楽器製作者に転身した異色の経歴の持ち主です。

首里高校在学中に吹奏楽部でオーボエと運命的な出会いを果たし、東京の音大を経てドイツのオーケストラでオーボエ奏者として活躍した仲村さんですが、もっと音質を良くしたいという思いが高まり楽器作りを決意。東京で設立した「ムジークヨーゼフ」においてドイツからマイスターを招きオーボエ製作の基礎を習得しました。その後、独自設計による楽器がオーボエ奏者として名高いマンフレート・クレメント氏に高く評価され「クレメントモデル」が誕生。オーボエメーカーとして幸運なスタートを切ることにになりました。

「楽器を作るうえで大切なのは妥協しないこと。私の場合は、演奏家としての視点や判断力を楽器作りに活かせることが、多くの演奏家の支持を得ることにつながったのだと思います。

「と話す仲村さん。2007年には自分の原点でもある故郷に貢献したいという思いから本社と工場を移転。以来、沖縄を拠点にオーボエ属3種類と、クラリネット、ピッコロといった木管楽器を製作しています。現在、東京と大阪、北京に店舗を構え、ヨーロッパやアメリカにも代理店を置く美ら音工房ヨーゼフ。確固たる意思を持ったモノづくりは世界から注目を集め、沖縄発のブランドを着実に育てています。

世界で評価されるヨーゼフブランド



写真上:自動車製造などで使用する機械を楽器用に作ったという独自の旋盤機械。写真中:オーボエの場合、キーの磨きや取り付けなど50の工程があり、すべて分業制になっています。写真下:グラナディアやピンクアイボリーなどの原木を加工し、成形した楽器の一部。



グローバルに発信



ヨーゼフユーザーのトーマス ローデ氏(ハンブルグ歌劇場首席オーボエ奏者)による、ヨーゼフ大阪店でのマスタークラスの様子。



2015年4月に行われたロシア・サンクトペテルブルグ音楽院での単独展示会の様子。仲村さん自らヨーロッパや中国、アジアなどで開催される展示会に積極的に参加し、世界中でヨーゼフファンを増やしています。



お話を伺った美ら音工房ヨーゼフ代表取締役の仲村幸夫さん



美ら音工房ヨーゼフ
南城市玉城字志堅原358-1
098-948-2502